

学際的アプローチによる中級日本語カリキュラムデザインの試み
-多元的観点からの批判的思考力を育てるために

Intermediate Japanese curriculum design using interdisciplinary
subjects to foster critical thinking

ロチャー・松井恭子
コロンビア大学

発表内容

- 1 先行研究：学際的研究とは
- 2 学際的アプローチのFLへの応用
- 3 実践報告
- 4 学生による評価とその考察

1 学際的研究 (Interdisciplinary Study) の定義

“A process of answering a question, **solving a problem**, or addressing a topic that is too broad or **complex** to be dealt with adequately by a single discipline or profession... IDS draws on **disciplinary perspectives** and **integrates** their insights through **construction** of a more **comprehensive perspective**. “

(Klein and Newell, 1998 p.3)

学際的研究の要素

Interdisciplinary research:

1. has a particular **substantive focus**.
2. extends **beyond a single disciplinary** perspective.
3. focuses on **a problem** or question that is **complex**.
4. is characterized by an **identifiable process** or mode of inquiry.
5. **draws explicitly on the disciplines**.
6. is based on **insights from different disciplines**.
7. has **integration** as its goal.
8. Is **pragmatic**: to produce a cognitive advancement in the form of a **new understanding**, a new product, or a new meaning.

(Bal, 2002, p27)

学際的研究の過程

1. State the problem or focus question
2. Justify using an interdisciplinary approach
3. Identify relevant disciplines
4. Conduct the literature search
5. Develop adequacy in each relevant discipline
6. Analyze the problem and evaluate each insight into it
7. Identify conflicts between insights and their sources
8. Create or discover common ground
9. Integrate insights
10. Produce an interdisciplinary understanding and test it

(Repko, 2008)

学際的研究 : Intellectual Essence

1) **Perspective Taking**

- Reduces the tendency to **negatively stereotype** individuals and groups
- Facilitates our ability to **assemble new sets of potential solutions** to a given problem
- **Heightens our awareness** that we are biased in the direction of our own knowledge where it comes from our life experience or prior academic training
- Invites us to engage in **role taking**
 - accurately perceive **how other see** and understand the world
 - view a situation broadly from **multiple perspectives**
 - perceive **the others perspective in depth** and have a full understanding of **the other's perspective**
- Involves **holistic thinking** (Repko&Szostak, 2016 pp17-18)

学際的研究 : Intellectual Essence

2) High level of intellectual behavior

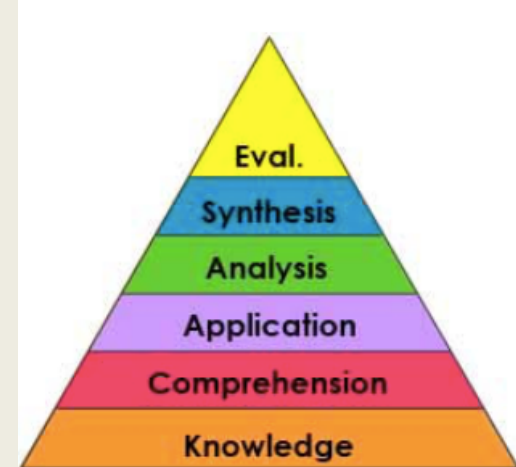
Integration is the cognitive process of critically evaluating disciplinary insights and creating common ground among them to construct a more comprehensive understanding. The New understanding is the product or result of the integrative process.

(Repko & Szostak, 2016, pp21-22)

Bloom's Taxonomy of levels of intellectual behavior (Anderson, Krathwohl, et al., 2001)



New Version



Old Version

学際的研究: Intellectual Essence

3) Epistemological Pluralism

Interdisciplinarity is adhere to epistemological pluralism. This refers to the diverse approaches that disciplines use to know and describe reality. Epistemological pluralism **rejects notions of absolute truth** and **embraces the ambiguity** that arises out of conflict and differences. Knowledge emerges from the cross-fertilization of different perspectives.

(Repko & Szostak, 2016 p24)

学際的研究

- “ ..if students take a sophisticated epistemic position, they would see the multiple perspectives they are confronted with as an opportunity to engage in what Dewey refers to as dialogical reflective thinking (1916, 1933) in order to make reasonable judgments (Paul, 1994) or warranted assertions (Dewey, 1938)...critical pluralism is a necessary foundation for interdisciplinary work.”

(Golding, 2009,pp18-19)

-preparing students to be reflective, autonomous and ethical beings capable of arriving at social truths through critical and intersubjective discourse (Dewey, 1976, 1980)

2 学際的アプローチのCCBIへの応用

1. 問題の設定
2. 学際的アプローチの正当化
3. 研究分野の選択
4. 各分野での研究
5. 各分野での研究結果の分析と考察
6. 結果の統合：矛盾点・相違点の確認
：共通基盤の創造・考案
7. 問題解決

Interdisciplinary subject template

(Golding, 2009)

<p>Main issue</p> <p>What is the significant topic, issue or content to be approached in an interdisciplinary fashion?</p> <p>For example, climate change, seeing, the body ...</p>		
<p>Reason for the interdisciplinary approach</p> <p>Why is an interdisciplinary approach valuable or necessary for this topic?</p> <p>What difference will an interdisciplinary understanding make?</p>		
<p>Integrative structure</p> <p>What is the aim of taking this interdisciplinary approach? What are students expected to produce?</p> <p>For example, deeper understanding, balanced judgement, solution, tangible product</p>		
<p>Interdisciplinary operation</p> <p>What sort of interdisciplinary moves will students need to make to produce this integrating structure?</p> <p>For example, translation, balancing, synthesis or accommodation</p>		
<p>Disciplines to be integrated</p> <p>Which disciplines will be integrated in the subject?</p> <p>For each discipline:</p> <p>Why is it important for interdisciplinary work on this issue?</p> <p>What substantial contribution does it make?</p> <p>How is it centrally relevant to and illuminating of the issue?</p> <p>How does it present a clearly distinct perspective, representing a different way of knowing?</p> <p>What would be missing if this discipline were not represented?</p>	<p>Discipline 1</p>	<p>Discipline 2</p>
<p>Discipline 3</p>	<p>Discipline 4</p>	

Interdisciplinary subject template (Golding, 2009)を編集

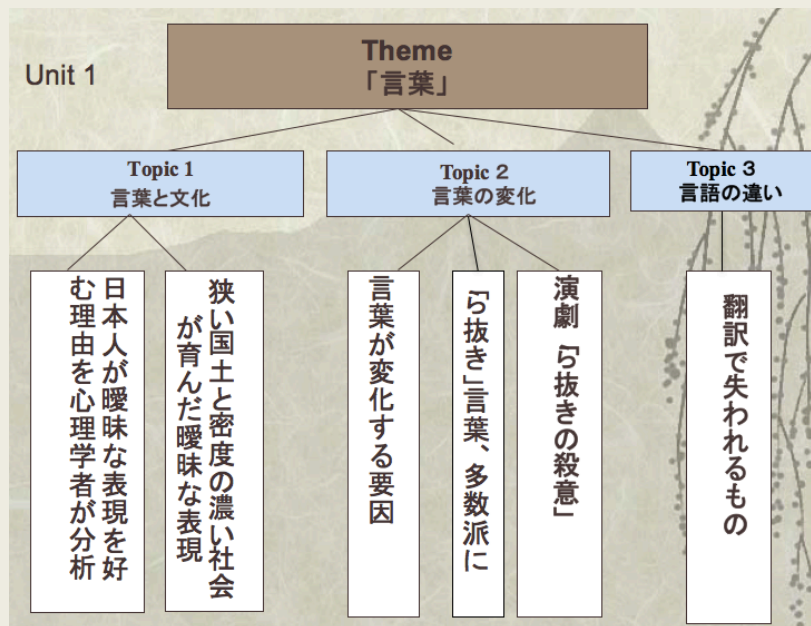
<p>Main issue 問題—テーマ (ステップ1)</p>	
<p>Reason for the interdisciplinary approach 学際的研究が必要な理由 (ステップ2)</p>	
<p>Disciplines to be integrated 研究分野の選択 (ステップ3)</p>	Discipline 1
	Discipline 2
	Discipline 3
<p>Integrative structure 目標: 学生に期待するものは何か</p>	
<p>Interdisciplinary operation 学際的研究の過程 (ステップ4~7)</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 各分野での研究 5. 各分野での研究結果の分析と考察 6. 結果の統合: 矛盾点・相違点の確認 : 共通基盤の創造・考案 7. 問題解決 	

3 実践報告

日本語中級コースにおけるカリキュラム編成

- テーマ別に10ユニット

例)



学習目標 Objectives

＜CCBIユニットの学習目標＞

内容学習目標

- 実際に起こった少年事件を通して、その背景となる日本の社会問題について学ぶ。
- 多分野にわたる社会問題について、その原因を分析し、その結果を統合し、解決策を考える。

文化学習目標

- 日本の社会問題を自国、または他国と比較し、異なる点／共通する点について考え、そこから学べる事は何か考える。

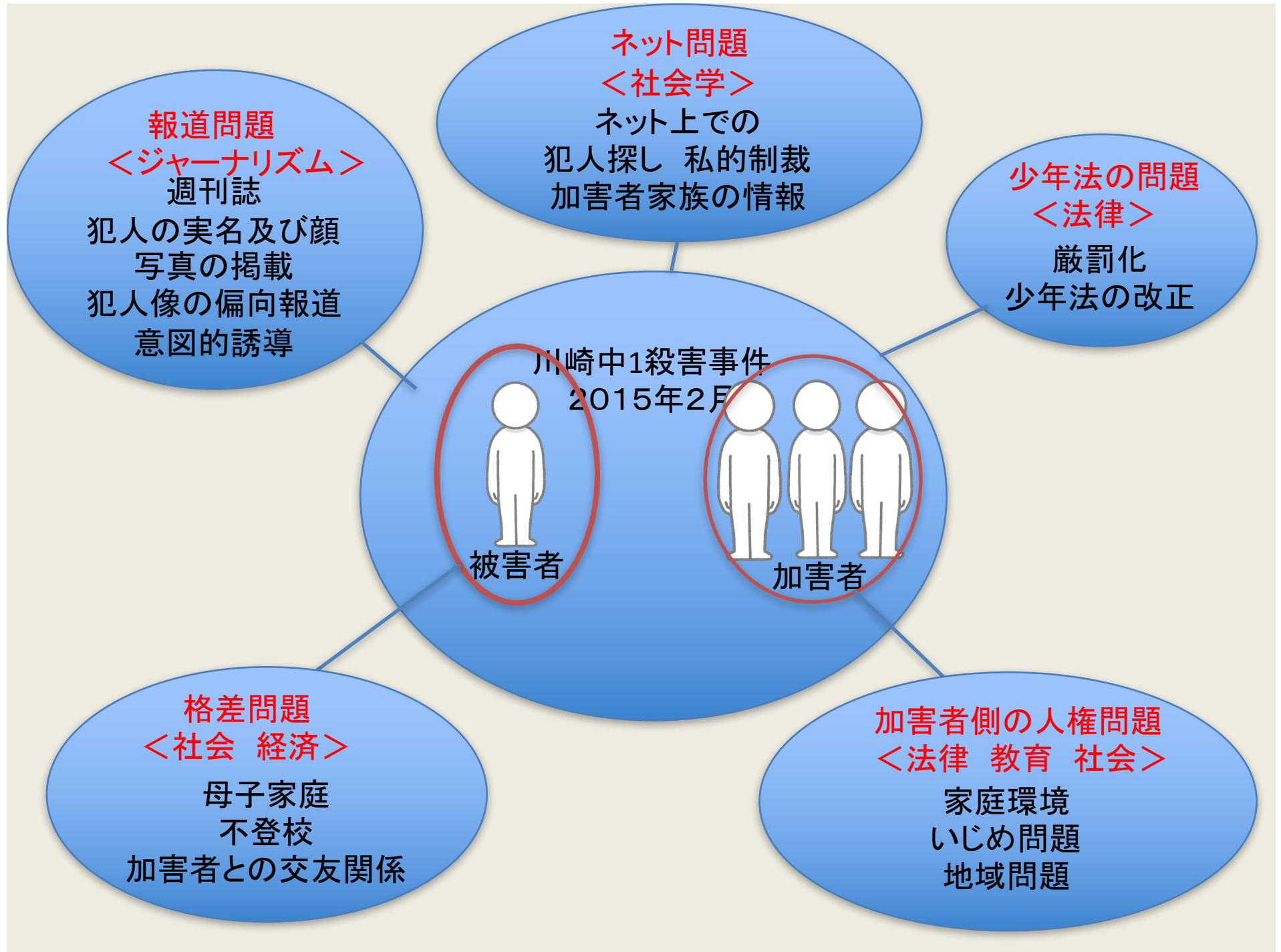
言語学習目標

- 新聞記事独特の語彙、表現、文法について学ぶ。
- 討論・発表に必要な語彙、表現を学ぶ。

学習ストラテジー／スキル

- 新聞記事の読み方について学ぶ(例 写真や副題からの内容推測等)
- 生教材を読むにあつての一般的な読解ストラテジーについて学ぶ

<p>Main issue 問題—テーマ</p>	<p>少年犯罪に見る社会問題— その原因説明と対策</p>
<p>Reason for the interdisciplinary approach 学際的研究が必要な理由</p>	<p>少年犯罪は複雑な要因を内包する。それらの要因には異なる社会問題がその背景として存在する。複雑に絡む社会問題について調べ、問題の本質を理解することが不可欠。</p>
<p>Integrative structure 目標: 学生に期待するものは何か</p>	<p>少年犯罪を表象的事実からのみ判断するのではなく、要因となる個々の社会問題について理解し、多角的視点からその要因を分析し、包括的理解に基づいた解決策を考える。</p>
<p>Disciplines to be integrated 研究分野の選択</p>	<p>1: 社会・経済<母子家庭 格差問題> 経済格差の現状と、母子家庭が直面する貧困問題について理解する。</p> <p>2: 社会学<ネット問題> ネット社会の問題—ネット上で犯人探しがされることの倫理的・法律上の問題を理解する。</p> <p>3: ジャーナリズム<報道問題> 報道のあり方—報道における意図的操作や報道倫理等について理解する。</p>



Theme
少年事件に見る現代日本の社会問題
「川崎中1殺害事件の教訓とこれから私たちにできること」

Topic 1
少年法の問題
(法律)

少年法「年齢引き下げ 共通認識を」

日本の少年法

近年起こった少年事件と加害者への判決

その後…加害少年への判決

Topic 2
ネット問題
(社会)

少年事件ネット上で無責任な「犯人探し」

映画「手紙」

インターネット…
法律事務所 ネット死刑の「わざ」

Topic 3
母子家庭 格差問題
(社会 経済)

SOSを出せない子供」とシングルマザーの悲しい関係自立だけに「だわる貧困対策には限界がある」

厚生労働省
平成23年度全国母子世帯等調査結果報告

シングルマザーの就業と経済的自立

英国の子どもの貧困対策
公正な社会へ試み続く

Growing Unequal?
Income Distribution and Poverty in OECD Countries

Topic 4
報道のあり方
(ジャーナリズム)

川崎中一殺害事件の主犯少年は「凶悪」不良」ではなかった」マスコミ報道の嘘

Topic 5
加害者家族の人権問題
(法律)

人殺しの息子と呼ばれて
家族の差別考えて「男性講演

プロジェクト:研究レポートと発表

目的:社会問題について、色々な角度からその原因を分析し、解決策を考える。

内容:

- ①四つの問題(少年法、ネット問題、母子家庭・格差問題、報道問題)の中から興味のあるトピックを一つ選び、ペア／グループで、インターネットなどを活用しながら、研究、調査を行う。
- ②どうしてそのトピックを選んだか、どんなことが分かったか、自分はそれについてどう思うか、自国と比較してどんなことが分かるか、解決策は何か、などについてレポートを書く。
- ③クラスで発表をする。その際、グラフや表を使って、調べたデータや情報を分かりやすく説明する。発表後、質問を受けたり、話し合ったりする。

みなさんがペア・グループで調べた結果、考えた問題解決を比べてみましょう。

以下の点について考えてください。

- 1 矛盾（むじゅん：conflict）している点、異なっている点がありますか。
- 2 1で見つかった矛盾をどうすれば解決できますか。そのための共通基盤（きょうつうきばん：common ground）を考えましょう。

分野	問題点	解決策	矛盾・異なる点	共通基盤
1 社会・経済 <母子家庭・格差問題>				
2 社会学 <ネット問題>				
3 ジャーナリズム <報道問題>				
4 法律<少年法の問題>				

- 3 少年犯罪を防ぐためにはどうしたらいいでしょうか。

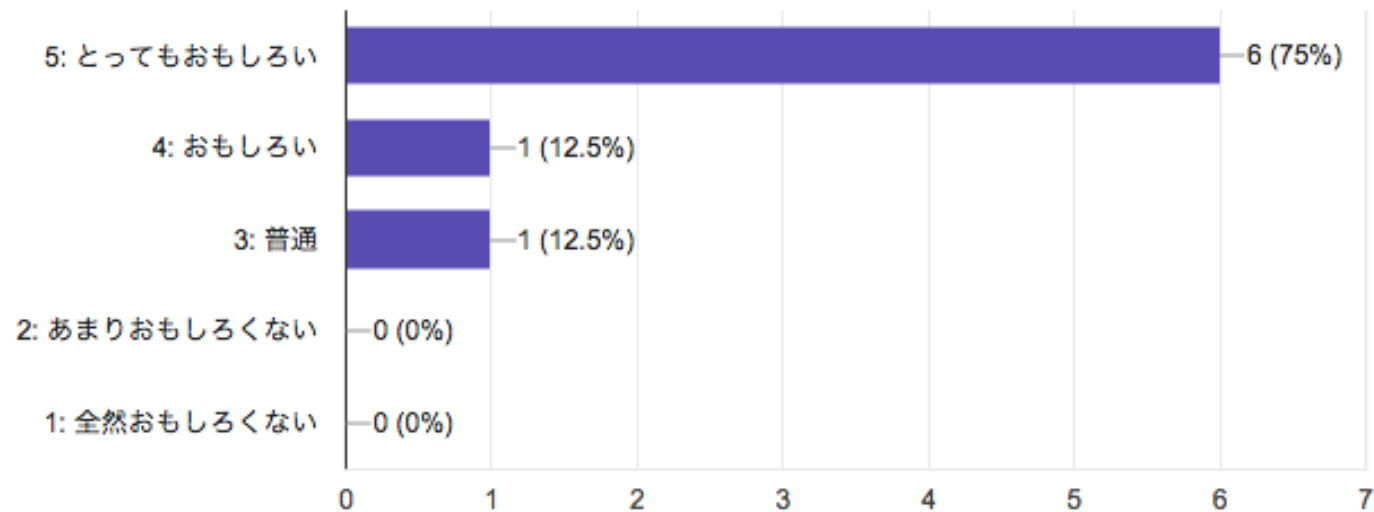
分野	問題点	解決策	矛盾・異なる点	共通基盤
1 社会・経済 ＜母子家庭・格差問題＞	母子家庭の貧困 男女の経済格差	社会福祉 男女雇用の平等化 離婚の際の母子家庭の保護		
2 社会学 ＜ネット問題＞	情報の拡散 (真偽不明) 犯人探し・私的制裁	規制 (例アルゴリズム作成) 少年法の改正 (引き下げ・厳罰化) デモクラシー教育		
3 ジャーナリズム ＜報道問題＞	偏向報道 意図的誘導	報道倫理にのっとった 言論の自由 読者のawareness (批判的に読む： 意図する読み手？ 目的？ Excludeされているもの・ 人は？		
4 法律 ＜少年法の 問題＞	少年法の理念の是非 少年法改正の是非	罰よりも 再教育を 家庭環境を良くする 地域のつながりある社会		

解決策：家庭が子供にとって安全で健全な場所となるように、公共のサポートを整備する。

学生へのアンケート調査結果

質問3 一つの事件を、複数の記事を通して、色々な視点から考えることについてどう思いますか。

8 responses



学生へのアンケート調査結果

そう答えた理由は何ですか。

8 responses

英語でもすみませんでしたが、all real critique is inter/anti-disciplinary

この事件についで、色々な記事を読んで、様々な意見を聞いた、いっぱい考えました。よかったです。

複数の記事を読んでから、多様な立場から課題を見ると深く考えられると思います。記事で提出された意見に賛成しないでも新たな意見を読むのがいいと思っています。

それはメディアの本質からです。

自分がそんなに多い視点から考えたことがありません、複数の記事を読んだ後で、社会問題についてもっと深く考えるようになっています。

今までにしたことごないアプローチだったからです。

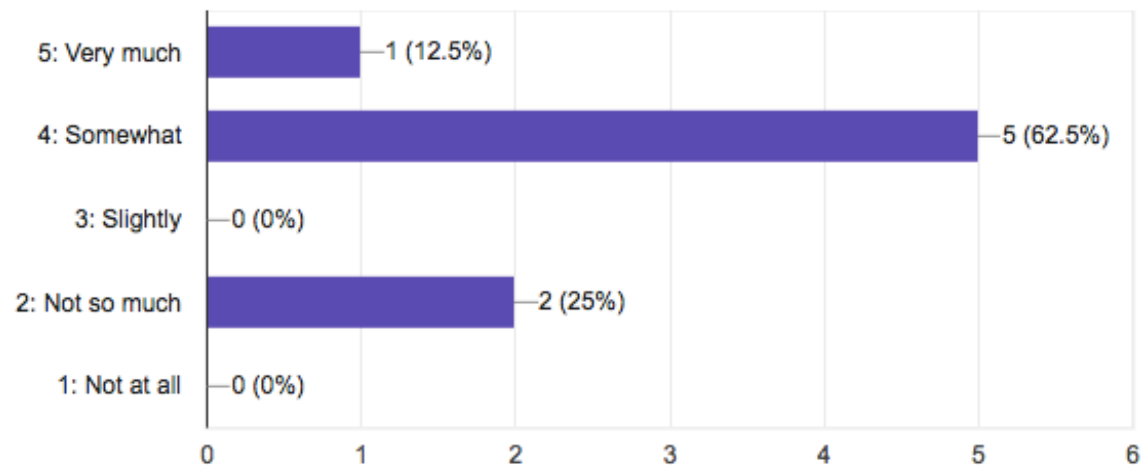
多彩な要因について読んでから事件をよくわかるようになりました。

色々な視点から考えることについて、事件を客観的の見方から勉強できるし日本社会問題も勉強できるのでとてもいいと思います。

学生へのアンケート調査結果

質問1 最初にこの事件について知った時と、異なる分野から分析した後と、事件に対する考え方は変わりましたか。Did your opinion on the case change from the first time when you heard about this case to the time after you analyzed it from different perspectives of the fields?

8 responses



学生へのアンケート調査結果

もし変わったなら、どのように変わりましたか。

5 responses

My opinion towards the youth killer was different. Before I only thought the responsibility was on the murder, however, now I felt like it was really a complicated problem that might involve the whole society when we talk about some incidents.

日本の法律（例えば少年法）についてあまり知らなかったから、あの話題はおもしろかったと思いました。自分の~~国の習慣または規則に慣れた~~から他の国の法律などを読むから最初の反応が変わります。

母子家庭の貧困問題について本当の原因。

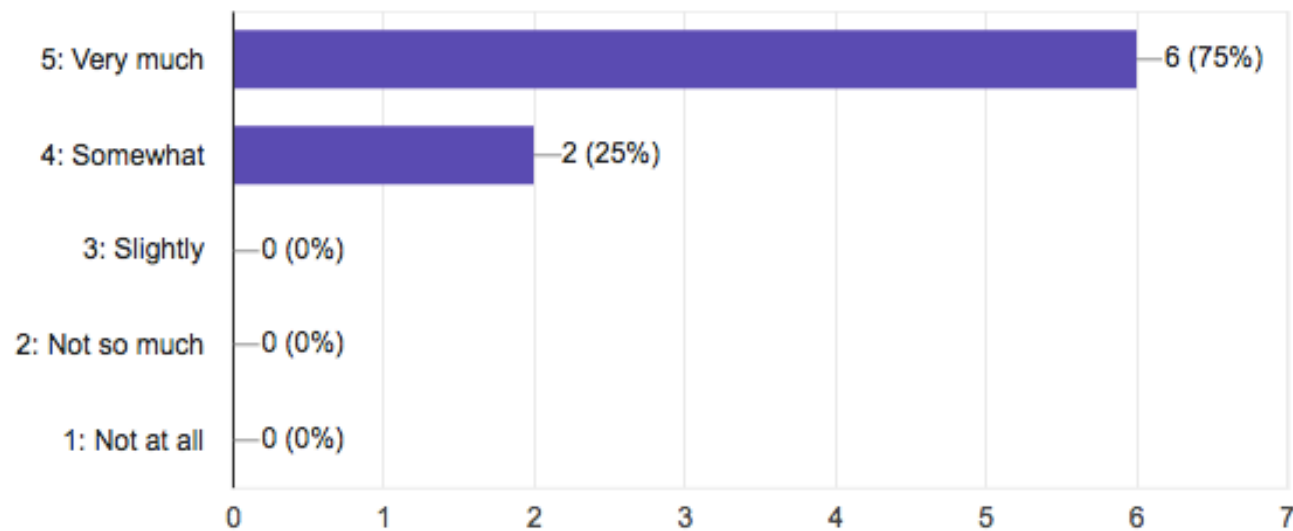
事件に関する各側にもっと寛容的になっています。

記事を読む前に、少年法に詳しくなかったから、まえより問題をよくわかりました。

学生へのアンケート調査結果

質問2 異なる分野からの分析は、この事件を理解する上で役立ちましたか。

8 responses



学生へのアンケート調査結果

もし役立ったなら、どのように役立ちましたか。

3 responses

I could think about this problem in a different aspects, which makes my vision more wide and deeper.

異なる分野からの記事を読んで、いろんな意見を聞きながら、この事件はどんな社会影響があったか分かりました。

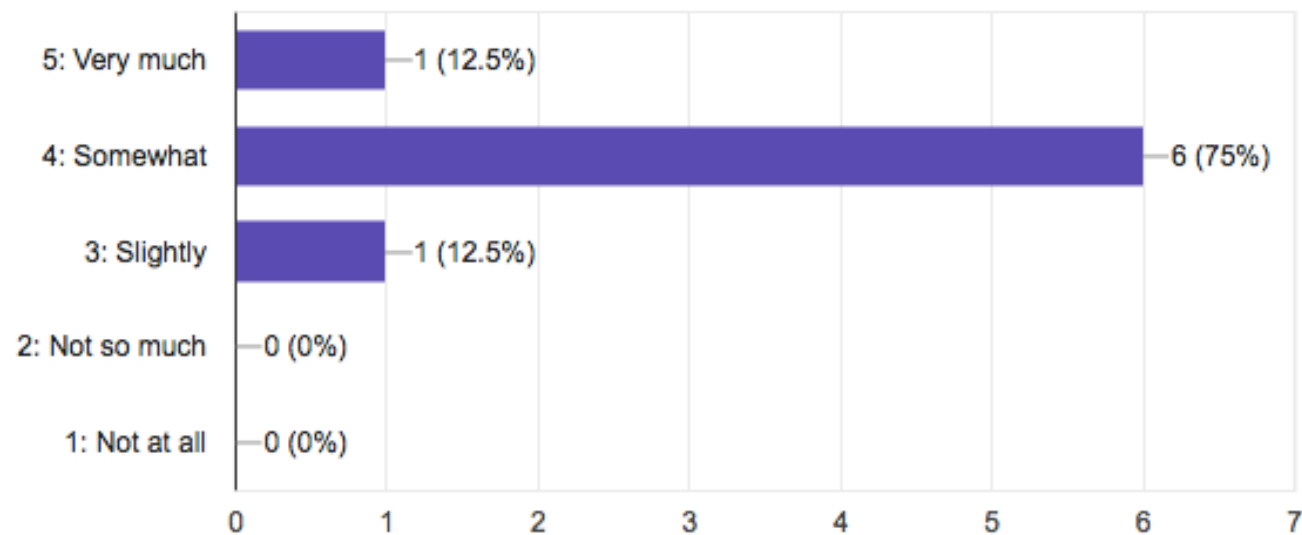
社会の問題は複雑なんだから、色々な分野の立場が役立つと思います。

学生へのアンケート調査結果

質問3 このユニットを始める前と後で、新聞などのニュースに対して、読み方・聞き方が変わりましたか。



8 responses



学生へのアンケート調査結果

もし変わったなら、どのように変わりましたか。

3 responses

日本語の記事の書き方がよくわかると思います。

このユニットを始める前に、私は新聞などのニュースを思案もせずに信じたことが多かったが、今は社会各界の意見を聞かなければなりませんと思います。

今年の夏休み前より読解練習として新聞記事を読んでいる。

Summative Evaluation of Interdisciplinary Teaching and Learning (Golding, 2009)

	質問	『はい』と答えた学生数
1	This subject challenged me to think in new ways	7
2	This subject introduced me to <u>new perspectives and ways of knowing</u>	5
3	In this subject I made connections between knowledge from multiple disciplines	4
4	This subject drew from various disciplines to create a <u>deeper understanding</u> of an issue	5
5	This subject improved my understanding of <u>what</u> interdisciplinary inquiry is	3
6	This subject improved my understanding of <u>how</u> to do interdisciplinary inquiry	3
7	This subject improved my understanding of <u>why</u> interdisciplinary inquiry is important	1
8	There was a clear <u>synthesis of the various disciplines</u> involved in this subject	5
9	In this subject I learned how to <u>integrate, balance and accommodate different perspectives</u>	5

反省と今後の課題

良かった点

- 学生が新聞記事等を読めたという達成感を感じられた。たくさんの語彙を学べたと感じている。(言語学習目標)
- 少年犯罪という多分野にわたる社会問題について、その原因を分析し、その結果を統合し、解決策にいたることができた。また、社会問題への興味を広げられた。(内容学習目標)

改善すべき点

- 語彙が多すぎる、難しいと感じた学生がいた。専門性の高い語彙の扱い方を考える、キーとなる語彙を使った活動を読む前にする、などが必要。学習者全体の日本語能力レベルを考慮し、テキスト選びをする必要がある。
- 新聞を読むこと以外の活動を求める学生がいた。CCBIをデザインする際のテキスト分析及び可能な学習活動内容をよく考える必要がある。

参考文献

Anderson, L.W. , Krathwohl, D.R., Airasian, P.W., Cruikshank, K.A., Mayer, R.E., Pintrich, P.R., Rath, J., & Wittrock, M.C. (2001). *A taxonomy for learning, teaching, and assessing: A revision of Bloom's Taxonomy of Educational Objectives* (p28). New York: Longman.

Bal, M. (2002). *Traveling concepts in the humanities*. Toronto, Canada: University of Toronto Press.

Bloom, B.S., Engelhart, M.D., Furst, E.J., Hill, W.H., & Krathwohl, D.R. (1956). *Taxonomy of educational objectives: The classification of educational goals*. Handbook 1: Cognitive domain. New York: David McKay.

Dewey J (1976 [1899]) The school and society. In: Boydston JA (ed.) *John Dewey. The Middle Works, 1899–1924 (Vol. 1, 1899–1901)*. Carbondale, IL; Edwardsville, IL: Southern Illinois University Press, 1–109.

Dewey J (1980 [1916a]) Democracy and education. In: Boydston JA (ed.) *John Dewey. The Middle Works, 1899–1922 (Vol. 9, 1916)*. Carbondale, IL; Edwardsville, IL: Southern Illinois University Press, 1–370.

Golding, C. (2009). *Integrating the disciplines: Successful Interdisciplinary subjects*.
<http://www.cshe.unimelb.edu.au/>

参考文献

Klein, J. T. (1990). *Interdisciplinarity: History, theory, and practice*. Detroit, MI: Wayne State University Press.

Klein, J.T., & Newell, W.H. (1998). Advancing Interdisciplinary Studies. In W. Newell (Ed.), *Interdisciplinarity: Essays from the literature* (pp. 3-22). New York: College Board.

Newell, W.H. (2001). A Theory of Interdisciplinary Studies. *Issues in Integrative Studies*. No.19, pp 1-25.

Repko, A. F. (2008). *Interdisciplinary research: Process and theory*. Thousand Oaks, CA: Sage.

Repko, A. F., Newell, W. H., & Szostak, R. (Ed.). (2012). *Case studies in interdisciplinary research*. Thousand Oaks, CA: Sage.

Repko, A. F., & Szostak, R. (2016). *Interdisciplinary research: Process and theory*(3rd ed.). Thousand Oaks, CA: Sage.